

本のひろば



「読書は未来の自分へのプレゼント」、これは作家の辻村深雪さんが自分にとっての読書について話された時の言葉です。図書室のカウンターにいと、ありがたいことに皆さんの本に対するつづやきを聞く機会がよくあります。先日、低学年の図書授業の本を準備していた時のこと。カウンターの周りにいた高学年の児童が「先生、前にこの絵本読んでくれたやんな。」と言いながら数人でその絵本をめくり始めました。その絵本は、低学年の図書授業の中でここ数年読み聞かせしているものでした。そこから、その当時に思ったことなどを懐かしそうに話し、今の自分が感じたことを各自つづやいているのを聞きながら、最初に書いた辻村深雪さんの言葉を思い出したのです。一冊の絵本を開くことからその当時の自分に出会える。大人になった時、またこの絵本に出会ったら未来のあなたは小学生だった自分のことをどんな風に思い出しながらページを進めるのかと想像したらワクワクしました。この秋、今の自分にしか贈れない未来の自分への、『読書』というプレゼントを贈ってみませんか？

秋の読書チャレンジは22日までです！

10月28日から始まった秋の読書チャレンジですが、どの学年もそれぞれ図書授業や休み時間を使って頑張っています。もらったラッキーカードを使える期間は二学期中なので、どんどん使って本をたくさん借りて読んで下さい。

* 1年生～3年生・・・3色読書チャレンジカード

* 4年生～6年生・・・ピングチャレンジカード

図書室からのおねがい

近頃、ページが取れていたり破けている本が、よくカウンターに届きます。図書室の本は長三小みんなの大事な本です。大切に扱うようにしてください。

今年もいただきました



今年も、『長岡京市福祉協議会 赤い羽根共同募金』で集まったお金の一部を頂きました。そこから、今年も様々な立場の人々の気持ちや、私達の生活を支えている環境について考えることのできる本を買ったので一部を紹介します。

平和の種をまく



『平和の種をまく』 写真・文/大塚敦子 岩崎書店

誰も望んでいないはずなのに始まってしまった戦争。戦後10年、敵として戦った民族が緑の農園で再び心を通わせる姿を写した写真絵本。私達に必要なのは争いではなく、互いの笑顔だと教えてくれる希望の本です。



『珍獣ドクターのドタバタ診察日記 動物の命に「まった」なし!』

著/田向健一 ポプラ社



「飼っていたイグアナが病気になったらどうすればいいだろう」と思ったところから獣医への道が始まった田向先生。ペットも病気も様々。亀の中耳炎、蛇の口内炎など。どんな命も大切だと改めて感じる一冊。



『かいくんとセラピー犬バディ』 著/井上こみち 国土社



セラピー犬と共に施設や病院でボランティア活動をしている海君。犬のバディがセラピー犬になるまでの訓練から始まって、一緒に成長し活動していく様子がイキイキと書かれています。



『保健室には魔女が必要』 作/石川宏千花 偕成社ノベルフリーク

主人公は保健室の先生でありそして魔女。生徒の悩みを「おまじない」で解決するという。「目が大きくなるおまじない」「お母さんにひどいことをいわなくなるおまじない」など。そんなおまじないがあるの？って気になるでしょ。そんな人はとりあえず読んでみましょう。

